

アドルフ・ヒトラー



戰事商人達は買賣を失ふことを

跳梁を許さず

余は確信

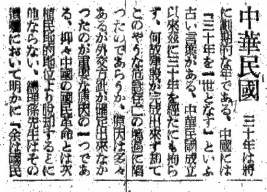
て余こそはドイツ民族が數十年來否數百年來で最暗の者たる人物の中余自身知つてゐるのみならず、更に最大の權力を興へられたるものなることを知つてゐるからである、而して何よりも、余がこの決意に達せる理由は余が勝利に對する確信、必勝を條件に信じてゐることにある。

國府の口吻から察知するに至
 るこの瞬間、余も亦伊ノ敵等し
 とす。これに對するといふのな
 らば止むを得ず、然と帝は余
 の命のある中に確信を失せんと歡
 喜に大業である。

蓋し余はこの度の戰
 争こそドイツ民族が従
 來知れる限りで最も酷
 烈な闘ひとなるべきこ
 とを知つてゐり、而し

全面和平實現の時

國民政府主席 汪精衛



革命に力多致す事凡そ四十倍、
その目的たるは國權の自由平等を求
むるに在りては疑ふに在らざる。

信念を
勇氣を

昨年一年 は中日兩國
とて、此の邊境の惡化は過去一旬
の凶惡を略消したことである。

第一 朝鮮興農會の創立

基金五萬圓を提供

食糧の飛騰的増産を確保すること、これは聖戰四年の體驗に基く帝國現下の迫切緊要なる課題でありました。而して我半島は帝國の穀倉たる重き使命のもとに官民一致、全力を擧げて食糧の大増産に努力してゐます。

我社はここに鑑みたるご方あり、この半島の負荷す甚大使命達成に協力すべく本年度に於ける我社「大事業の一」として朝鮮農業の全般的振興と農業生産の一大躍ぐ運動を目的として「朝鮮興業會」を創設することに決定せられた。これが基金金として初年度に於て我社より先づ金五萬圓を醸出し、逐次必要に應じて増加醸出する豫定であります。

而して朝鮮興業會の事業を致しましては毎年度農産物並に農家副業中より特に指定したるものに對し、増産改良の競争を行はしめ優秀部落の褒獎を行ふほか、農業技術の改良進展を促進する各種競技會を主催し、以て全般的なる農業生産躍ぐ運動推進の拍車ならんことを期すの次第であります。取敢て初年度事業計畫として米の多收種栽培を優秀技術者有の表彰等について具體的に準備を進めてゐる、追つて細目の決定種栽培を優秀技術者に發表の手筈であります。現下大陸經營の進捗に伴ふ東亞食糧自給圖の確保が嚴しく叫ばれ、米作を中心とする半島農業の地位をたゞいよいよ重要視せられてゐる折柄、この舉に對し全韓官民の絶大な脚衣援を懇請してやみません。

第二 機械化國防訓練場建設

國防第二陣の強化

現代戰に於ける科學の威力は今更ら説までもない。歐洲戰爭は機械力の壓倒的勝利と言ふも過言ではありませぬ。人類の歴史はこの歐州戰爭の結果に別れてしまつたといふの有様であります。我國に於てもは獨逸戰爭の結果に別れてゐる。最近機械化國防思想の普及と運動が猛烈として起つて参りました。しかしながら國防の機械化は決して一朝一夕に成果を結ぶものではない。多年に亘る研究と努力を要するばかりでなく、一面國防の機械化が完備したところの肝要の國民的訓練が相俟つてなければ佛作つて魂を入れたるに等しいのであります。機械化した國防に對する國民の知識の普及と向上或は機械化兵器の操作に對する條練を目的とした國防化國防運動の必要が強調される所以であるとも信じます。

我社はこの國家整備の必要に精進し、機械化國防運動の果敢なる全國民的實踐を提唱すべく、我社明年度「天事業の一」として京城市府附近に機械化國防に關する一大總合目標地を開闢、大落卜傘塔の建設を始め、空軍第三陣の強力再建を目標とするグライダー隊の訓練に必要な施設その他基礎的訓練を施すに必要なる一切の設備を建設してこれを一般に開放することに致しました。目下「天」總構内、朝鮮機械化國防協會關係方面と連絡、準備を整へつつありますから、敬乞貴社の他細目の決定次第計畫的全貌を發表致します。

我 社 本 年 の 二 大 事 業

和元二千六百第一年元旦

京城日報社

空しく過す

事なきを切望

我々には唯 和平を冀
 望つた。事既に米財人、亞
 細亞は種々な米財、經路が
 思はれし通關、米財、亞細
 亞に上陸、勢力、民は元來
 のままであり、國內に入ら
 ぬが、我が東に勢力、民は
 既に次第に上陸せし、恰も
 己の食ひたるで、自食し、
 約を食ひたるので、現行共
 共黨黨の、一見、其の

新春頌

困苦に耐へよ

[illegible]

賀正
紀元二六〇二年

京城化學工業株式會社

酒見恒太郎

朝鮮殖産銀行

林	山	富	申
口	永	富	
繁	重	文	計
藏	政	一	太

朝鮮鐵道株式會社

株式會社
和信

和信貿易株式會社
和信連鎖店株式會社
鮮一紙物株式會社
大同興業株式會社
大東織物株式會社

應接組合

永登浦

始興郡糧穀組合

安部早人

朝鮮纖維再製業株式會社

朝鮮朝鮮コルク工業所
朝鮮製函工業合資會社

三星製材製函工業社

橫尾武敏

東西藥房

新井工務店

賀正

富屋商事株式會社

美濃屋製麩工場

至誠鐵工所

山本洋服店

永登浦商店

永登浦演藝館

第...

林正二商店

岡崎木箱工場

小森二...

鮮産製材株式會社

朝鮮製粉株式會社

永光セメント工場

京城ビツチ煉炭工場

西田石炭商店

永登浦醫友會

永登浦醫院

京城紡織株式會社

永登浦工場

總力總文總機

朝鮮原皮販賣株式會社

愛國纖維再生工業株式會社

京城工場

昌和工業株式會社

株式會社朝鮮鐵工所

始興郡面長一同

鐘淵紡績株式會社

京城支店

日本精工株式會社

朝鮮火藥銃砲株式會社

株式會社利泰洋行

東洋紡績株式會社

京城工場

藤村特殊合金所

龍山工作株式會社

大日本紡績株式會社

京城工場

丁場長今西芳三郎

丁場長今西芳三郎

丁場長今西芳三郎

丁場長今西芳三郎

丁場長今西芳三郎

世紀の除夜

北村小松作

都竹伸 一畫

「世紀の除夜」梗概 昭和六年の除夜、東京の某旅館に、一男一女の二人が、静かに暮らしてゐた。男は、東京の某大企業に勤め、女は、その妻として、静かに暮らしてゐた。二人は、結婚して、五年が経ち、二人の子供が、それぞれ、三歳と二歳の年頃で、二人は、静かに暮らしてゐた。二人は、結婚して、五年が経ち、二人の子供が、それぞれ、三歳と二歳の年頃で、二人は、静かに暮らしてゐた。二人は、結婚して、五年が経ち、二人の子供が、それぞれ、三歳と二歳の年頃で、二人は、静かに暮らしてゐた。



賀正

總力總立 總構
紀元二六〇二年

朝鮮果實協會 大島商會 朝鮮製藥合資會社 橫濱火災海上保險會社 京城不動產株式會社 田中實業 大久保眞敏商店 新田義民 辛酉俱樂部 精乳舍 藤雲堂 京城出張所	朝鮮行政學會 大谷保 門田製版所 龍山精米所 京城印刷工業組合 永保合名會社 朝鮮産業協會 愛國婦人會朝鮮本部 東光書局 李晶來	日本勸業證券株式會社 橋詰吳服店 竹下平三郎商店 河本憲泓 森本組京城支店 志岐工業株式會社 葉山千花 千代本丸本舖	法人朝鮮漁業組合 中央會 鈴木文次郎 第一徵兵保險株式會社 支店長 黑瀬宗一 京城府水邊町二丁目六四 電話本局二一九二〇番	朝鮮銀行 松原純一 鷄林起業株式會社 高瀬倉京城支店 京城府西界町一九四ノ二 土建業 當房有次郎 電話龍山七八九番	朝鮮農林株式會社 楠見組京城支店 京城府三坂通一〇三番地 電話龍山八四九番	錢高組京城出張所 京城府江通十一番地 電話龍山二二三番	合資中村組 京城府竹園町三丁目	株式會社北島藥店 京城府本町三丁目十二番地	明治生命保險株式會社 京城支店	西田石炭商店 京城府市町四一	朝鮮窒素肥料株式會社 長津江水電株式會社 朝鮮鳴綠江水力發電株式會社 朝鮮送電株式會社 日室礦業開發株式會社	日本高周波重工業株式會社	朝鮮半島ホテル	京城自動車交通株式會社	京城組合銀行														
第一產業株式會社 朝鮮生命保險株式會社 漢城精米所	彌生町貸座組合 東邦礦業會社	京城織物小賣商組合 京城府南大門通五丁目十八番地 中外礦業株式會社 京城出張所	青葉製作所 武井千萬人 京城府大島町	又一錢京城支店	各種硝子製品 朝鮮硝子工業株式會社 京城府大島町一八番地 電話龍山一六九番	朝鮮硝子工業株式會社	漢江水力電氣株式會社	小林源六 株式會社丁子屋	鈴木文次郎 株式會社丁子屋	第一徵兵保險株式會社 支店長 黑瀬宗一 京城府水邊町二丁目六四 電話本局二一九二〇番	高瀬倉京城支店	鷄林起業株式會社	朝鮮銀行 松原純一	朝鮮農林株式會社	楠見組京城支店	錢高組京城出張所	合資中村組	株式會社北島藥店	明治生命保險株式會社	西田石炭商店	朝鮮窒素肥料株式會社	長津江水電株式會社	朝鮮鳴綠江水力發電株式會社	朝鮮送電株式會社	日室礦業開發株式會社	日本高周波重工業株式會社	朝鮮半島ホテル	京城自動車交通株式會社	京城組合銀行

新春祠頭 山村耕花



文化部への希望

片岡 鐵兵

會賛翼

文化部への希望

緑の山を想ふ

飯田 蛇笏

朝鮮に寄する言葉

東郷 青児

心構への問題

杉本 長夫



心構への問題 (杉本 長夫)
左は、大正十一年七月、
東京府立第一高等女学校
の校長、杉本長夫氏の
演説の要旨を記したものである。
杉本氏は、この演説で、
女子の心構へについて、
鋭い批判を述べた。
彼は、女子が、
単に知識を得るだけでなく、
心構へを鍛錬する必要があると
主張した。
その心構へとは、
責任感、忍耐、誠実、
そして、自己犠牲の精神である。
杉本氏は、
女子が、
これらの心構へを身につけて、
社会に貢献するべきだと
述べた。
この演説は、
当時の女子教育界に
大きな衝撃を与えた。
そして、
女子の心構への問題が、
社会の注目を集めるようになった。
杉本氏の演説は、
今日でも、
女子教育の参考に
なっている。
彼は、
女子が、
単に知識を得るだけでなく、
心構へを鍛錬する必要があると
主張した。
その心構へとは、
責任感、忍耐、誠実、
そして、自己犠牲の精神である。
杉本氏は、
女子が、
これらの心構へを身につけて、
社会に貢献するべきだと
述べた。
この演説は、
当時の女子教育界に
大きな衝撃を与えた。
そして、
女子の心構への問題が、
社会の注目を集めるようになった。
杉本氏の演説は、
今日でも、
女子教育の参考に
なっている。

賀正 總力立總構 年一〇六二九紀

大邱府	佐治商會	慶北商工聯合會	大邱被服商會	慶北住宅社	魚竹	福壽軒	大邱鐵工業組合	慶尚北道果物組合	松前倉庫	大邱印刷會社	西田大藥房株式會社	朝鮮自動車株式會社	共榮自動車株式會社	慶北貨物自動車株式會社	大邱合同タクシー株式會社	慶尚北道唐辛子株式會社	山根政治	大邱大宰	兵頭	岩城彌太郎	大邱大倉聖在	國產洋服商會	鄭在鉉	南部鐵工株式會社	南部鐵工株式會社	野村號武具製造株式會社	三井大邱支店	大邱地方專賣局	坂本俊資	慶北無盡株式會社	棟居酒造場	朝鮮大邱	大邱府本町二丁目	大邱府本町一丁目	大邱府本町三丁目	大邱府本町四丁目	大邱府本町五丁目	大邱府本町六丁目	大邱府本町七丁目	大邱府本町八丁目	大邱府本町九丁目	大邱府本町十丁目	大邱府本町十一丁目	大邱府本町十二丁目	大邱府本町十三丁目	大邱府本町十四丁目	大邱府本町十五丁目	大邱府本町十六丁目	大邱府本町十七丁目	大邱府本町十八丁目	大邱府本町十九丁目	大邱府本町二十丁目	大邱府本町二十一丁目	大邱府本町二十二丁目	大邱府本町二十三丁目	大邱府本町二十四丁目	大邱府本町二十五丁目	大邱府本町二十六丁目	大邱府本町二十七丁目	大邱府本町二十八丁目	大邱府本町二十九丁目	大邱府本町三十丁目	大邱府本町三十一丁目	大邱府本町三十二丁目	大邱府本町三十三丁目	大邱府本町三十四丁目	大邱府本町三十五丁目	大邱府本町三十六丁目	大邱府本町三十七丁目	大邱府本町三十八丁目	大邱府本町三十九丁目	大邱府本町四十丁目	大邱府本町四十一丁目	大邱府本町四十二丁目	大邱府本町四十三丁目	大邱府本町四十四丁目	大邱府本町四十五丁目	大邱府本町四十六丁目	大邱府本町四十七丁目	大邱府本町四十八丁目	大邱府本町四十九丁目	大邱府本町五十丁目
-----	------	---------	--------	-------	----	-----	---------	----------	------	--------	-----------	-----------	-----------	-------------	--------------	-------------	------	------	----	-------	--------	--------	-----	----------	----------	-------------	--------	---------	------	----------	-------	------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------

